

農業土木と私

株式会社
チェリーコンサルタンツ ● 社家里枝子
技術第一部



私について

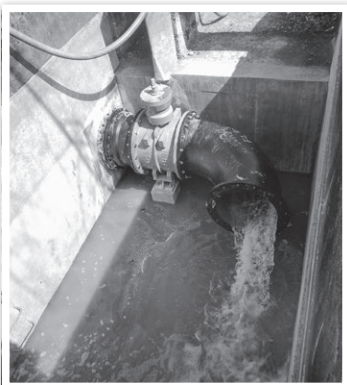
私が幼い頃は祖父母が農家だったこともあり、稲刈りや野菜の収穫等の手伝いをしていました。また、夏の暑い時期は田んぼの横を流れる用水路で何度も水遊びをしたこともあり、私にとって農業や農業水利施設は身近な存在でした。一方で、両親は建築士として住宅や神社等の建物の設計をしており、両親が設計した建物が実際に完成した時は私までワクワクした記憶があります。そんな私が農業土木と出会ったのは高校三年生の進路選択の時でした。当時、特にやりたいこともなかった私は、漠然と大学に行けばやりたいことも見つかるかな、進学するなら何となく農学系が良いかなと思って、たまたま進学した先が農業土木を扱う大学でした。夢を持って農業土木を選んだわけではありませんでした。就職の際には、せっかくなら大学で学んだことを生かせる職業に就きたいと思い、農業土木をメインに扱うチェリーコンサルタンツを選びました。チェリーコンサルタンツでは農業農村整備事業における調査・計画・設計を行っています。就職したての頃は漠然と選んだ会社であったため、合わなかったらどうしよう、すぐ辞めてしまうかも思っていました。現在まで思いのほか楽しく働いています。適当に選んできた進路のつもりでしたが、幼い頃から身近にあった農業やものづくりの経験から、そういった道を選んだのかなと感じます。

これまでの業務内容について

チェリーコンサルタンツに入社して二〇二三年度で一〇年目になります。一年目は社会人としても、技術者としても初めてのことがばかりで、上司や先輩社員の指示を聞いてこなすので精一杯な毎日であったという間でした。

これまで私が携わった主な業務は水理解析に関する業務で、特に私にとって印象深かった業務は、長大水路における配水方法検討業務です。現況は全線開水路で配水している地区で、営事業により一部区間のパイプライン化が行われ、パイプラインから既設開水路、支線水路を経て地区全体へ配水される地区において、パイプライン化に伴い計画用水量が減っている中で、現況通りの取水ができるよう効率的に配水するための水管理方法について水理解析により検討を行いました。上司の指導のもと、条件を変え、何度も解析を行い最適な水管理方法を検討しました。その後、水理解析により決定した配水方法に基づき、各分水施設から配水する計画用水量が決められ、その分水施設の実施設設計が始まりました。配水方法検討から引き続き、実施設計も担当しましたが、それまで水理解析を主に担当していたので、実施設計の経験は少なく、何から手を付けたらいいのかわからないことも多々あり、ベテラン上司の指導を仰ぎながら何とか設計作業を進める状態でした。発注者からの鋭い指摘事項に対し、素早かつ的確に回答する上司を見ると、まだまだ勉強不足、経験不足を実感しました。

その後、実施設計をもとに分水施設は無事施工され、完成したパイプラインに初めて通水する通水試験に立ち会いました。通水試験実



分水施設からの通水（配水）の様子



会社の様子（技術者及び営業・事務員）
※私は上段、左から3番目（矢印）です。

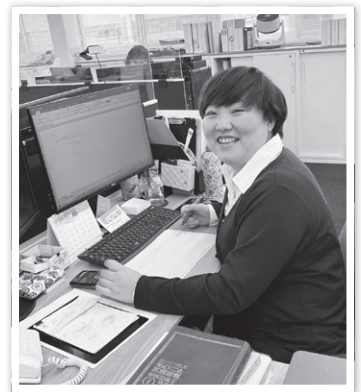
また、男性技術者から、女性技術者が多いこともあり会社内の雰囲気明るくなったといった意見や、女性技術者の増加により弊社でも女性が働きやすい環境に作りが進められ、その結果他の社員にとっても働きやすい環境になってきているといった意見も聞きます。実際に、弊社では女性だけでなく男性も育休を取得し、男性女性ともに子育てと仕事の二刀流で頑張っている社員もいます。

土木分野はまだまだ男性多数だとは思いますが、近年は打合せ等で発注者や他社でも女性の方を見かけることが多くなったように感じます。業界全体で女性が働きやすい環境作りが進められてきた

女性技術者として思うこと

私が入社した頃は、全技術者のうち女性技術者は二割程度でした。しかし、人数は少ないながらも活気ある女性先輩方に触発され、女性だからと遠慮せず仕事ができる環境でした。その先輩方の影響もあってか、徐々に女性技術者が増加し、現在では全技術者のうち女性技術者が約三割程度まで増え、その中には、結婚や出産を経て仕事復帰されたママさん技術者もあり、活気にあふれている職場だと感じます。

ただでなく、女性ならではの良さが発揮されてきたから女性の進出が進んでいるのではないかと思えます。女性ということで現場での重い調査機材の持ち運び等、あまり役に立てない部分があるとしてもありますが、女性だからこそ期待できる面も大きいと思います。例えば地元説明会において、女性農家さんの参加も増えてきており、説明者の中に女性がいることで丁寧に答えてくれるのではないかと期待し、いろいろ聞きやすい環境になっていくように感じました。また、地元農家さんや発注者の中には不満や疑問が大きくなると厳しい発言が出ることもありますが、女性には強く言いづらい部分もあるのか、比較的和やかな雰囲気が進むことが多いように感じます。女性だからできない部分もあれば、女性だからこそ発揮される部分も多々あるので、そういった良さを広めていった女性先輩方に感謝し、私自身も女性技術者として良さを発揮できるよう、これからも精進したいと思えます。



仕事中的様子

社家さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、設計コンサルタントの道を選んだものの結婚を機に退職、一六年のブランクを経て復職し感じたことを女性技術者としてお伝えしたいと思えます。よろしくお願いたします。

株式会社ジルコ 設計第一部

富澤 真未

